

主要事業名	多様で主体的な生涯学習活動の推進						作成日	R6.5.21
							担当課名	中央公民館
							担当者名	酒井 勝也
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費	
						建設事業	その他	
事業期間	○	単年度	年度繰返し		期間限定	年度から	年度まで	

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	1	人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる	
体系項目	(1)	社会教育の充実と多様で主体的な生涯学習活動の推進		基本政策	2	共に学び成長しながら生きる	
個別施策	①	学習に取り組める場と学習機会の充実		基本施策	2	豊かな鹿嶋文化を共に創り育む	

根拠法令等	教育基本法, 社会教育法
-------	--------------

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	公民館は、「教育基本法」や「社会教育法」、「公民館の設置及び運営に関する基準」に基づき、市民の生涯学習、市民活動に取り組む場所として施設貸出するほか、講座等の開催により、多様な学習機会の提供に努めることが求められている。公民館における学びを通して「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み、地域の防災力の向上や地域福祉、持続的な地域コミュニティを支える基盤としても期待される。
------------	---

目的（事業の目指すところ）	「住民主体、行政は積極的支援」を基本とした地域活動を推進しつつ、身近な小学校区を基本として地域ごとに公民館を整備し、住民の学習活動や市民活動に貸し出しするとともに、幅広い地域課題の解決に向けた学習機会の提供に努める。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民カレッジの開催（市民を対象とした教養講座等・子どもや若い世代の参加促進）</li> <li>社会教育施設（公民館）の貸館業務</li> <li>中央公民館祭「て～ら祭」</li> </ul>
------------	--

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	平成30年に中央教育審議会から出された答申により、公民館は、地域の学習拠点としての役割に加えて、地域コミュニティの維持や地域発展を推進するセンター的役割、地域の防災拠点としての機能が期待される。
--------------------------	---

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R5年度 (実績)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)	R8年度 (予定・見込)	R9年度 (予定・見込)
		公民館利用者数	人	230,949	250,000	255,000	260,000
	て～ら祭来場者数	人	3,721	4,000	4,000	4,000	4,000

投入コスト	全体計画		R5年度 (決算額：千円)	R6年度 (予算額：千円)	R7年度 (計画額：千円)	R8年度 (計画額：千円)	R9年度 (計画額：千円)
	事業経費	市民カレッジ講師謝礼（年5回予定）		40	60	60	60
て～ら祭運営委託			450	420	420	420	420
合計			490	480	480	480	480
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		490	480	480	480	480
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		4	4	4	4	4
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		3	3	3	3	3

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何をを行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①市民カレッジ(定期講座)の開催 【比率: 30%】	市民の教養、実生活に即した講座等を開催する。	令和5年度は「子ども・若い世代の参加促進」を取り入れた講座を年5回開催する。	○臨時移動学習「県歴史館特別展:鹿島と香取」 ①「能楽の世界を楽しもう」親子・一般 ②「鹿嶋の海ゴミでアート」親子 ③「東国三社巡り」一般④「消防署体験」親子 ⑤「コーヒーセミナー」⑥「英国式の裁縫ダーニング体験」 評価: A	◆令和5年度 7回(延べ236人参加) うち親子対象3回 ※令和4年度参考 5回(延べ167人参加) うち親子対象2回 評価: A	歴史や伝統芸能、環境、防災、自然に関する様々な学習機会を提供した。 評価: B	個別事業実績評価点: 26.9 【課題】 今後も市民の関心が高い内容や、現代社会が抱える諸問題などの把握に努め、市民の実生活に即した講座内容に反映していく。引き続き、若い世代の参加促進を図るため、親子向け講座を企画する。
②貸館業務 【比率: 30%】	市民の学習活動や地域づくり活動等の拠点として、公民館施設の利用促進を行う。	利用者が快適な学習環境の中で安心して利用できるよう、施設の適正な維持・管理に努める。	(公民館室数) 鹿島19室、高松7室 平井6室、豊津6室 豊郷4室、波野4室 鉢形6室、三笠7室 大野17室、はまなす5室 中央19室 評価: B	(公民館年間利用者数) R5年度 延230,949人 ※R4年度215,152人 評価: B	令和5年5月8日から第5類へ移行されたが、引き続き利用者の協力を得ながら感染症対策(使用備品の消毒等)を継続し、安全管理に努めた。 評価: B	個別事業実績評価点: 19.5 【課題】 第5類へ移行したが、各公民館の利用者が微増であった。改めて、各種事業・施設紹介を通じて公民館の利用促進を図っていく。
③第17回て〜ら祭 【比率: 40%】	中央公民館まつり「第17回て〜ら祭」を開催する。 【会期】11月4日(土)~5日(日) 【会場】中央公民館及び体育館	・て〜ら祭を開催し、来場者数2,500人以上(前年度比増加)を目指す。 ・中央公民館利用団体等の企画を図り、事業内容の充実を図る。	第17回て〜ら祭 ・実行委員会 2回開催 ・全体(参加団体)説明会議 1回 ・広報周知活動 評価: B	第17回て〜ら祭を2日間開催 ・R5来場者数: 3,721人 ※R4来場者数: 約2,500人 評価: A	コロナ禍前のように制限を解除して対面でのステージ発表や模擬店等を開催した。 評価: B	個別事業実績評価点: 31.6 【課題】 多くの方にご来場いただいたが、駐車場が不足したため一時的に近隣へ影響が出た。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	78.0	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行後も、感染症対策(手指消毒等)の協力をいただきながら、公民館の適正かつ安全な維持管理に努めた。</li> <li>公民館主催の各講座やイベントについても、コロナウイルス感染症対策による制限を無くし、対面での学び・交流機会を提供した。</li> </ul>							
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	充実	理由	公民館は教育基本法や社会教育法に基づく施設で、目的や事業が法律で定められているため。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館利用団体や市民活動団体(団体事務室)の後継者が不足しているため、公民館事業を通じて若い世代の地域活動の参加促進(育成)が求められている。</li> </ul>							
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代が公民館事業や地域活動に関心を持ち、参加促進するよう、子どもを切り口に親子で参加できる事業等を引き続き企画・実施する。</li> <li>大きな事業を開催する際の駐車場について、清真学園の駐車場を借用するなど対策を検討する。</li> </ul>							

主要事業名	放課後子ども総合プランの推進					作成日	R6.5.14
						担当課名	社会教育課
						担当者名	野村 優
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
事業期間	○	単年度	年度繰返し	期間限定		建設事業	その他
						年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	1	人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成	基本政策	1	多様性を理解し共に生きる
個別施策	②	子どもたちの居場所づくり事業の実施	基本施策	1	まちぐるみで子育てを応援する
根拠法令等	児童福祉法，放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準，鹿嶋市放課後児童クラブ設置条例，鹿嶋市放課後子ども教室実施要綱				

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	文部科学省及び厚生労働省による連携のもと，平成19年度から総合的な放課後児童対策として「放課後子どもプラン事業」が開始した。平成26年度には「放課後子ども総合プラン」に改められ，両事業を一体的に又は連携して実施することを目標に計画的な整備を進めてきた。その後，女性就業率の上昇等により，更なる共働き家庭等の児童数増加が見込まれており，放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携を前提とした追加整備が不可欠となることから，平成30年度に「新・放課後子ども総合プラン」が策定され，令和5年度が最終年度となる。
目的（事業の目指すところ）	次代を担う人材を育成するため，すべての児童を対象に，体験活動・交流活動等を実施する放課後子ども教室と，留守家庭の児童を対象に生活の場を提供する放課後児童クラブを一体的又は連携して実施する総合的な放課後対策を目的とする。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 余裕教室の活用及び学校施設の一時的な利用に向けて各小学校との協議を進める。</li> <li>・ 各事業における参加児童の安全確保のため，参加児童の状況を把握し，指導員の配置等関係機関と協議する。</li> <li>・ 放課後子ども教室において，多様な学習，体験プログラムの充実を図る。</li> </ul>
国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等	<p>&lt;国の動向&gt; 全ての児童の安全・安心な居場所を確保するため，一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進めることを推進している。</p> <p>&lt;県の動向&gt; 地域の実情に応じた研修計画の策定，教育委員会と福祉部局の具体的な連携に関する方策及び特別な配慮を必要とする児童への対応に関する方策を検討している。</p>

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
			(実績)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)
目標	放課後児童クラブ利用者数 (待機児童数)	人	1,061 (0)	1,192 (0)	1,192 (0)	1,192 (0)	1,192 (0)
	放課後子ども教室（平日の部）利用者数	人	263	244	244	244	244

投入コスト	全体計画		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
			(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
事業経費	放課後児童クラブ運営委託料		222,090	224,552	224,552	224,552	224,552
	(運営委託料のうち人件費)		184,763	189,774	189,774	189,774	189,774
	放課後児童クラブ運営委託料以外の経費		5,016	34,778	34,778	34,778	34,778
	放課後子ども教室・平日運営委託料		11,391	11,376	11,376	11,376	11,376
	放課後子ども教室。平日運営委託料以外の経費		511	588	588	588	588
	放課後子ども教室・休日運営委託料		1,379	1,488	1,488	1,488	1,488
	合計		425,150	462,556	462,556	462,556	462,556
財源内訳	国県支出金		120,519	117,354	117,354	117,354	117,354
	地方債						
	その他(参加者負担金)		52,880	55,014	55,014	55,014	55,014
	一般財源		251,751	290,188	290,188	290,188	290,188
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		2	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短），嘱託職員等）		2	2	2	2	2

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①放課後子ども教室(平日) 【比率: 20%】	放課後に学習、創作活動及び他学年との交流などを通して、社会性及び知力の向上を図ること、また、下校時の安全を確保するため、小学校1～3年生を対象に放課後子ども教室(平日)を開催する。 ・放課後子ども教室(平日) 11教室 ・運営委託契約 NPO法人 2社 社会福祉法人 2社	対象児童を高学年が下校する時刻まで、または保護者がお迎えにくるまで預かることで、安全・安心な居場所を確保するだけでなく、安全な下校を実現する。	放課後児童クラブの運営を委託している団体に放課後子ども教室(平日)の運営についても委託し、一体的又は連携して事業を実施した。 ・開催日数(11教室平均) 122日	放課後子ども教室(平日)の開設により、低学年のみで下校する児童を減らすことができた。 ・利用者数 263人(前年度 279人)(前年度比 94.3%) ・市内小学校低学年の放課後子ども教室利用割合 19.1%	放課後子ども教室(平日)の運営を円滑にするため、委託先及び学校との連携に努めた。また、毎月各教室を訪問し、運営状況を確認した。	個別事業実績評価点: 13.0 【課題】 未実施であった2校(三笠小学校、大同東小学校)のうち、令和5年度から大同東小学校で放課後子ども教室(平日)を開設した。 三笠小学校については、受託者との協議及び開設場所の検討を行っている。
②放課後子ども教室(休日の部) 【比率: 20%】	小学校1～6年生を対象に、地域の方の参画を得て交流活動等の機会を提供することで、地域との関わりの中から社会性を得ること、また、地域全体で子どもを育てていくことを目的に放課後子ども教室(休日)を実施する。 ・放課後子ども教室(休日) 10地区 ・運営委託契約 まちづくり委員会 10地区	様々な体験活動や地域住民との交流活動により、児童の社会性、自主性及び創造性等の豊かな人間性を育成するとともに、地域コミュニティの充実を図る。	放課後子ども教室(休日)の運営については、地域と密接な関係にある各地区のまちづくり委員会に委託し、事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の5類移行により、様々な制限が緩和されたため、各地区において、地域住民との交流をはじめとした教室を開催することができた。 ・開催回数 73回(前年度 69回)(前年度比 105.8%)	放課後子ども教室(休日)では、地域の歴史に関する学習、伝統文化の体験及び各地域のお祭りへの参加などをおこなった。保護者参加型にすることで、児童、保護者及び地域住民とのつながりづくり、地域全体で子どもを育てるという意識形成につながっている。 ・参加者数 1,786人(前年度 1,444人)(前年度比 123.7%)	各地区公民館と連携し、SNSを活用した広報活動を実施している。民間企業で実施している事業に応募した結果、採択されたため、放課後児童クラブと連携して実施した。 【参考】 住友生命「フスマイアフタースクールプロジェクト(科学実験教室)」	個別事業実績評価点: 15.1 【課題】 甘藷の苗植え、収穫、加工、販売までを児童及び地域住民と行った地区もあり、地域コミュニティの充実寄与している。 しかし、依然として、事業を実施するための人員、人材の確保が課題となっており、地区ごとの開催回数に差が出ている。
③放課後児童クラブ 【比率: 60%】	小学校の放課後や長期休業中の方に、保護者が子どもを安心して預けられる適切な居場所づくりを確保するための環境整備を行う。 ・設置する小学校 12校 ・設置クラブ 35クラブ	児童クラブの利用を希望するすべての児童の受け入れをおこない、利用児童の適切な遊びや生活の場を提供し、健全な育成を図る。 ・待機児童なし ・運営委託契約 NPO法人 1社 社会福祉法人 3社	小学校との連携により、放課後児童クラブで使用する教室を確保し、また、事業者との協議により受け入れ児童数の拡充を行った。これにより待機児童を発生させることなく事業を実施した。	放課後児童クラブの利用を希望するすべての児童の受け入れを行い、留守家庭児童の安全・安心な居場所を提供し、また、そこでの遊びや生活に関する活動を通じて、児童の健全育成を図ることができた。 ・定員 1,336人(前年度 1,336人)(前年度比 100%) ・利用者数 1,061人(前年度 1,016人)(前年度比 104.4%)	特別な配慮が必要となる児童についても、児童クラブ受託事業者、小学校、福祉部局担当課及び放課後等デイサービス事業者との連携により、受け入れを行った。	個別事業実績評価点: 53.7 【課題】 利用を希望する児童が増加する中、開設場所の確保が大きな課題となっている。普通教室の活用も検討しているものの、小学校及び事業者との協議がすすまない状況となっている。また、支援員等の高齢化もすすんでおり、担い手不足も課題となっている。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA～Cの区分により総合評価とする。	合計点数	81.8	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	「新・放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業を実施した。放課後子ども教室事業(休日)については、新型コロナウイルス感染症の5類移行の影響やSNS活用の効果により参加者が増加しているだけでなく、内容についても各地区豊富になってきている状況である。また、放課後児童クラブについては、令和5年度においても待機児童を発生させることなく、利用を希望するすべての児童の受け入れを行った。特別な配慮が必要な児童の受け入れについても、関係機関との連携を密にし、居場所を確保することができた。両事業の推進により、児童の居場所づくり、多様な体験活動及び地域住民との交流活動など、総合的な放課後対策を実施した。					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	充実	理由	年々増加する利用希望者に対応するためにも、放課後児童クラブにおける児童の受入体制の拡充を図る必要がある。また、地域住民間の関わりが希薄となってきており、小学校以外における児童の安全な居場所づくりのため、放課後子ども教室の充実が必要となる。			
課題	放課後児童クラブについては、依然として開設場所や支援員等の確保が困難な状況である。また、放課後子ども教室についても人員の確保が大きな課題となっており、事業の拡充が困難となっている地区がある。					
改善策	開催場所の確保については、普通教室の活用も視野にいれ検討している。また、人員不足については、各地区公民館及びまちづくり委員会と連携し、知人の紹介等、気軽に応募していただけのような環境づくりを行っている。					

主要事業名	地区公民館におけるまちづくり事業の充実						作成日	R6.5.21
							担当課名	中央公民館
							担当者名	酒井 勝也
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費	
						建設事業	その他	
事業期間	○	単年度	年度繰返し	期間限定		年度から	年度まで	

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	1	人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成	基本政策	1	多様性を理解し共に生きる
個別施策	①	学習に取り組める場と学習機会の充実	基本施策	2	多様なライフスタイルを応援する

根拠法令等	
-------	--

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	地域における公民館事業（地区まちづくり事業）を、各地区の住民・団体等で構成する地区まちづくり委員会に委託することで、住民主体の事業展開を推進する。また、鹿嶋市まちづくり連絡協議会において、各地区まちづくり委員会相互の情報交換や研修会等を開催し、それぞれの活動の活性化と資質向上を図る。令和5年度には地区コミュニティプラン（市民主体の地域づくり計画）の改訂を行った。
------------	--

目的（事業の目指すところ）	市民一人ひとりが主体的な学習活動を展開し、学びの成果を生かした地域活動・まちづくり活動が活発に行われる持続可能な地域の形成を目指す。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区コミュニティプランを活用し、地域の魅力や資源、人材等を活用した新たな事業・地域の特色を生かした取り組み（モデル事業）の実践</li> <li>10地区公民館を拠点とした、地域住民による学習活動・交流活動・地域づくり活動等の促進</li> <li>地区まちづくり委員及び公民館職員等の研修会・情報交換の開催</li> </ul>
------------	--

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p>◆人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（中教審）</p> <p>《地域における社会教育の目指すもの》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>地域における社会教育の意義と果たすべき役割 ～「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～</li> <li>新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～</li> </ol> <p>《「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学びへの参加のきっかけづくりの推進</li> <li>多様な主体との連携・協働の推進</li> <li>多様な人材の幅広い活躍の促進</li> <li>社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等</li> </ol>
--------------------------	--

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R5年度 (実績)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)	R8年度 (予定・見込)	R9年度 (予定・見込)
		地区まちづくり委員数	人	820	800	800	800
	研修会等の機会	回	31	30	30	30	30

投入コスト	全体計画		R5年度 (決算額：千円)	R6年度 (予算額：千円)	R7年度 (計画額：千円)	R8年度 (計画額：千円)	R9年度 (計画額：千円)
	事業経費	地区まちづくり事業委託	10,840	10,560	10,560	10,560	10,560
	まちづくり支援事業委託	450	400	400	400	400	
	合計	11,290	10,960	10,960	10,960	10,960	
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源	11,290	10,960	10,960	10,960	10,960	
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	5	5	5	5	5	
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）	0	0	0	0	0	

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①まちづくり事業(研修会等)の開催と地域コミュニティプランの改訂 【比率: 40%】	公民館を拠点とした地域づくり活動等について、今後のあり方を調査研究し、委員相互が情報共有するために必要な会議・研修会等を開催する。	・市まちづくり連絡協議会の設置。(各地区まちづくり委員会の代表者で構成) ・公民館関係者及び職員の研修会(研究集会等)の開催。 ・地区コミュニティプランの改訂(第2期:R6~R10)に向けた会議等の開催	・市まちづくり連絡協議会役員会を開催し、各地区まちづくり委員会相互の情報交換及び事業の協議を行った。 ・まちづくり連絡協議会研修会を開催した。 ・公民館研究集会(旧市民大会)を開催した。	・まち連協役員会(委員長及び館長)4回開催 ・まち連協研修会「コミュニティスクールに寄与する」→6/4 71人参加 ・公民館研究集会 2/4 →309人参加 ・全地区でコミプラ改定に向けた会議等を実施	・公民館を核としてコミュニティスクールに寄与する機運醸成を図った。 ・それぞれの地区で、コミュニティプランの改訂を通じて「公民館を核にした共創のまちづくり」について考える機会とした。	個別事業実績評価点: 35.8 【課題】 ・第1期コミュニティプランに対する住民の認知度が低かったため、改訂後は多くの住民・関係者に認識されるような取り組みが必要である。
②公民館事業(公民館まつり、住民体育祭等)の開催 【比率: 40%】	・地区公民館を拠点として、地域住民の学びや交流、地域づくりに向けた様々な活動等を推進する。 ・地区住民が主体となった活動体制(地区まちづくり委員会)の充実(人材確保等)を図る。	・地域住民が主体となって事業企画に係る会議等を開催し、事業等を実施する。 ・地域の課題解決に向けた取り組みや地域の絆づくり事業など、公益的な地域づくり事業の実施。	地域の実情に応じた様々な学習・交流・地域づくり事業を行った。	・各地区まちづくり委員会(地区公民館)において、住民を対象とした教養講座、公民館まつり、スポーツイベント、防災訓練、広報紙作成、学校支援活動等を実施した。	・全地区公民館において各種事業で中学生(学校)の参加を呼びかけ、多くの中学生ボランティアの参加があった。 ・県教育広報コンクールで鹿嶋市から4地区が入賞した。	個別事業実績評価点: 30.2 【課題】 コロナの影響によるコミュニティの希薄化、地域活動等の担い手不足などの課題がある。課題解消に向け地域住民や各種団体等が連携して取り組む必要がある。
③特色ある地域づくり事業(モデル事業)の実施 【比率: 10%】	各地区まちづくり委員会において、地域の資源を活用し、魅力ある地域づくりの新たな取り組みを実践する。	地域の特色を生かした新たな取り組みの実施。 ※各地区(3カ年計画)	・R3~5(豊郷):ゆたかな郷推進事業(歴史再発見による地域の絆づくり) ・R5~(高松):地域の宝発見事業(地域の伝統継承) ・R5~(波野):地域で育てる波野っ子)	・豊郷:地域の史跡や伝統を学ぶ「豊郷すごろく」完成 ・高松:子どもの「木滝あんな囃子」体験や発表会等の開催 ・波野:「子どもが主体となった事業企画」に向け懇談会等を開催	地域の魅力発見・課題解決に向け、学校や様々な市民活動団体と連携した活動を実践することが出来た。	個別事業実績評価点: 9.0 【課題】 委員会(地域)自らが、地域実情に沿った新たな事業を企画・運営・評価する体制につながった。引き続き、他地区へ普及する働きかけが必要である。
④公民館職員等の研修・情報交換等の開催 【比率: 10%】	・公民館長会議の開催 ・職員連絡会議の開催 ・公民館主事研修会の開催 ・茨城県主催研修会への参加 ・全国公民館研究集会への参加	公民館業務に携わる職員の資質向上を図る。	・館長会議7回 ・職員連絡会議11回 ・全体研修1回 ・新任公民館職員研修1回 ・茨城県公民館連絡協議会研修1回	各会議、研修会を開催し、各館の情報共有を行うとともに、公民館職員の資質向上を図った。	地域活動を支える公民館職員等のスキル向上に取り組むことが出来た。	個別事業実績評価点: 6.5 【課題】 地域の課題等が多種多様化しており、公民館職員としての更なるスキル向上が求められている。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	81.5	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い地域づくりを推進していくため、各市民活動の指針となる「地区コミュニティプラン」を改訂した。また、作業を通じて関係機関・団体の連携強化を図った。</li> <li>・各地区まちづくり委員会では、地域住民が主体的に地域づくりやまちづくり事業を実施し、地域コミュニティの形成、地域の絆づくり、地域の連帯感を育む取り組みが行われた。</li> <li>・学校の協力をいただきながら、子どもたちの事業参加はもとより、運営側への協力者(ボランティア)としての働きかけを実施した。</li> </ul>						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	これからの「共創のまちづくり」「地域づくり」を推進するために、公民館が持つ特性(行政と地域・学校等とのネットワーク)が重要であり、その持続可能な体制づくりが必要である。				
課題	コミュニティプランを推進する市民組織体制と活動のあり方、市民の学習と活動を支援する公民館の役割等の構築に向け、基本的な方針、考え方をまとめていく必要がある。						
改善策	改訂した「地区コミュニティプラン」を活用して、地域で活動される団体と情報を共有しながら、地域の実情やニーズに合った学習と地域づくり活動を検討していく。						

主要事業名	文化芸術の振興					作成日	R6.5.21	
						担当課名	社会教育課・中央公民館	
						担当者名	出頭・平島	
事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス	管理経費	
事業期間	○	単年度	年度繰返し	期間限定		建設事業	その他	
						年度から	年度まで	

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	1	人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる
体系項目	(3)	生きがいづくりへとつながる文化的活動の促進	基本政策	2	共に学び成長しながら生きる
個別施策	① ②	芸術祭・市美展等の発表の場の拡充 生涯学習活動の団体の支援・育成	基本施策	2	豊かな鹿嶋文化を共に創り育む

根拠法令等	鹿嶋市社会教育推進計画
-------	-------------

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	文化芸術は、人々が心豊かな生活を実現していく上で不可欠なもので、何物にも代え難い心のよりどころである。市民の文化芸術活動をさらに活性化するためには、市民一人ひとりが創造力を発揮し文化芸術を楽しめる環境を整え、継続的に支援していくことが求められている。
------------	---

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根付いた祭りや踊り、文化財等に市民が触れることができる機会を創出することで、文化芸術の振興を図る。</li> <li>市民の文化芸術活動に対する関心を高め、意欲的な創作活動を促進する。</li> <li>多くの子どもや若者が文化芸術に触れ、豊かな感性や創造性等を育む機会を充実することにより、次代の文化芸術の担い手の育成を図る。</li> </ul>
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内各施設（勤労文化会館、各公民館など）での文化芸術に関わる事業を実施していく。</li> <li>文化芸術を振興する団体（文化協会、文化スポーツ振興事業団など）への支援を行い、連携を図りながら、文化芸術に関わる事業を展開する。</li> </ul>
------------	--

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	文化庁では、次代を担う子どもたちに対して、華道、茶道などの伝統文化等を体験できる機会を提供することにより、伝統文化等を継承・発展させるとともに、豊かな人間性の涵養を図ることを目的に伝統文化親子教室事業を実施している。また、当該事業では、子どもたちの様々な活動機会がコロナ禍前の水準に戻りつつあることから、地方公共団体や関係団体が一体となって、より多くの子どもたちに対して伝統文化等の体験機会を提供することも目的としている。
--------------------------	---

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R5年度 (実績)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)	R8年度 (予定・見込)	R9年度 (予定・見込)
		鹿嶋市郷土かるたの累計販売数	個	335	360	370	380
	伝統文化親子教室参加者数	人	430	500	500	500	500
	美術展覧会・芸術祭鑑賞者	人	1,814	1,900	2,000	2,100	2,200

投入コスト	全体計画		R5年度 (決算額：千円)	R6年度 (予算額：千円)	R7年度 (計画額：千円)	R8年度 (計画額：千円)	R9年度 (計画額：千円)
	事業経費	文化芸術普及活動への謝礼		80	100	100	100
	文化振興事業補助金（文化協会）		334	320	320	320	320
	文スポ事業団運営補助金		23,558	23,618	23,618	23,618	23,618
	文スポ事業団文化事業補助金		3,000	1,860	1,860	1,860	1,860
	伝統文化親子教室事業		653	765	765	765	765
	伝統行事親子体験事業委託		1,562	2,416	2,416	2,416	2,416
	芸術祭・美術展覧会事業		585	596	596	596	596
	合計		29,772	29,675	29,675	29,675	29,675
財源内訳	国県支出金		2,148	3,180	3,180	3,180	3,180
	地方債						
	その他(参加者負担金)		36	55	55	55	55
	一般財源		27,588	26,440	26,440	26,440	26,440
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		4	4	4	4	4
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		2	2	2	2	2

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①文化芸術の普及活動 【比率: 40%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるたをはじめとした文化財の紹介や伝統文化親子教室の実施を通して、市民に対し鹿嶋市の伝統文化に触れる機会を創出するとともに、市民音頭の普及も図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるたの累計販売数</li> <li>伝統文化親子教室参加者数</li> <li>市民音頭普及活動数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるたを販売し、市民への文化財の周知を実施した。</li> <li>伝統文化親子教室として祭囃子教室3回、和紙絵教室4回、華道教室4回、茶道教室5回、三味線教室2回、和飾り教室2回を実施し、伝統文化に触れる機会を設けた。</li> <li>かしま祭りにおいて市民音頭を披露する普及活動を行った。</li> </ul> <p>評価: A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるたは社会教育課、中央公民館、大野公民館の窓口で販売し、累計販売数は335個。R5年度は38個販売した。</li> <li>伝統文化親子教室には延べ人数で祭囃子教室52人、和紙絵教室95人、華道教室133人、茶道教室71人、三味線教室35人、和飾り教室44人と総計で430人が参加した。</li> </ul> <p>評価: A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統文化親子教室は募集定員を大きく上回る応募があった。講師の厚意で定員を増やしたが、それでも応募数を上回ったため抽選を行い、体験教室を実施した。</li> </ul> <p>評価: A</p>	<p>個別事業実績評価点: 40.0 [課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるたについて、その周知や販売を推進するための方策を検討していく。</li> <li>伝統文化体験に関するニーズがあることが判明したことから、継続できるような進めていく。</li> <li>市民音頭の普及活動については、イベント以外の普及を模索していく。</li> </ul>
②歴史文化に触れる機会の創出 【比率: 20%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財等に触れることで、鹿嶋市の文化財や伝統行事の価値を認識する機会を創出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統行事親子体験事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統行事親子体験では、かつて地域で作られていた鹿島大助人形(回除け人形)の製作体験を行った。</li> </ul> <p>評価: A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統行事親子体験事業では、大助人形作り体験に延べ人数で54人が参加した。</li> </ul> <p>評価: B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大助人形に関するパネルの掲示や、自分自身で作成した大助人形を通して、本市の歴史に興味を持つとともに、郷土への誇りや愛着を育む機会を創出した。</li> </ul> <p>評価: B</p>	<p>個別事業実績評価点: 15.1 [課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市の文化財や伝統行事の価値を認識する機会を提供できる方法を検討する。</li> </ul>
③文化芸術振興団体の支援、育成 【比率: 20%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市文化協会、鹿嶋市文化スポーツ振興事業団に対し、補助金を交付し、文化事業に対する支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市文化協会の事業の実施数</li> <li>鹿嶋市文化スポーツ振興事業団の文化事業数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各団体への補助金の交付。適宜各団体との連絡調整を実施。各事業に伴う会議への出席。</li> </ul> <p>評価: B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化協会事業数2</li> <li>文化スポーツ振興事業団文化事業数8</li> </ul> <p>評価: B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業の実施にあたり、各団体との連絡調整を密に実施した。</li> </ul> <p>評価: B</p>	<p>個別事業実績評価点: 13.0 [課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな文化の担い手の育成についても検討していく。</li> </ul>
④美術展覧会等の開催 【比率: 20%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市文化協会と連携して美術展覧会等を開催し、市民が文化芸術に親しむ機会を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出品点数及び鑑賞者数</li> <li>美術展覧会(R4:出品141点、鑑賞615人)</li> <li>芸術祭(R4:出品313点、鑑賞782人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第26回鹿嶋市美術展覧会の開催(会期6日間):運営委員会議、審査・授賞式、各PR、展示・搬出等</li> <li>第19回鹿嶋市芸術祭の開催(会期6日間):代表者会議、各PR、展示・搬出等</li> </ul> <p>評価: A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術展覧会(出品147点、鑑賞901人)</li> <li>芸術祭(出品369点、鑑賞913人)</li> </ul> <p>評価: A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術事業への子どもの参加促進を図った。(市美展へ高校生5人が出品。芸術祭へ小・高校65人と特別支援学校のグループ作品出展)</li> </ul> <p>評価: A</p>	<p>個別事業実績評価点: 20.0 [課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞者・出品数は増加したが、引き続き、新たな出品者の増加に向けた手法等を検討していく。</li> </ul>

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	<p>具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。</p>	合計点数	88.1	<p>A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下</p>	総合評価結果	A
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるた、伝統文化親子教室や市民音頭を通して、市民に対し鹿嶋市の伝統文化に触れる機会を提供できた。さらに、大助人形製作体験を通して、市の文化財や伝統行事の価値を認識する機会を創出した。</li> <li>文化芸術振興団体への支援を行い、文化芸術の振興のために必要な施策の推進を図った。また、文化芸術振興団体と連携を図りながら市美術展覧会や芸術祭等を開催し、多くの市民(小学生・高校生含む)が文化芸術活動の発表、鑑賞する機会の提供を行った。</li> </ul>					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	<p>文化芸術、伝統文化に触れる機会が減っている中、郷土かるたや伝統文化親子教室等による機会提供が必要である。</p>			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財や伝統等に触れる機会が著しく減少している中、市の文化財や伝統等の価値を認識するための機会を創出していく必要がある。</li> <li>市民音頭の普及活動については、イベント以外の普及を模索していく。</li> <li>文化芸術振興における新たな文化の担い手の育成についても検討していく。</li> </ul>					
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統文化体験に関するニーズがあることが判明したことから、引き続き、文化財や伝統文化に触れる機会を提供していく。</li> <li>市文化財やの伝統文化、文化芸術に触れる機会を提供しながら、新たな担い手の育成が可能となるよう事業を推進する。</li> </ul>					